

第1回 総合治水対策のプログラム評価に関する検討会 議 事 要 旨

日時：平成 15 年 8 月 28 日（木）15:00～17:00

場所：国土交通省会議室（合同庁舎 3 号館 2 階 特別会議室）

1. 「総合治水対策のプログラム評価に関する検討会規約（案）」について承認された。
2. 総合治水対策のプログラム評価の目的及び進め方について
 - (1) 本プログラム評価について
 - 本プログラム評価の評価対象は、昭和 55 年建設省事務次官通達「総合治水対策の推進について」でコンセプトを打ち出して実施したことが良かったのか、やり方が良かったのかどうかという観点から、プログラム（施策群）を一括りにして評価するものであり、総合治水対策特定河川 17 河川流域を個々に評価するものではない（事業評価とは異なる）ことが確認された。
 - 都市化に伴う水害に限定しているのは、本プログラムが著しい都市化の進展に治水対策が追いつかないことを発端としていることによるものであることが確認された。
 - 本プログラム評価は、下記の観点で行う必要がある。
 - 通達の対象が 17 河川でよかったのか。つまり、昭和 30 年代～50 年代の総合治水特定河川と同じような状況下において、総合治水特定河川に指定されなかった河川の治水対策がうまくいったのか。また、通達での対象河川の指定の仕方が適切であったか。
 - 通達に基づいて実施した総合治水対策の内容が良かったのか。
3. 総合治水対策の現状について
 - 福岡の御笠川等では、昭和 30 年代～50 年代に総合治水特定河川で見られていたのと同様の現象が起きているものと見られ、総合治水対策の経験が生かされていないのではないか。
 - 水害常襲地帯に住まなかった方が良かったのではないかとの観点もある。
 - 治水は農業生産や居住を可能とならしめる基礎的な社会資本として進んできた歴史的経緯があり、総合治水河川でも人口増を受け入れざるを得ない中で治水対策を進めてきたことから、そこは住めますというふうにいわざるを得なかった。今後は人口が減っていく中でどういうところに居住するのか、住むべきでないのか、といった議論は出てくる。
 - 被害軽減対策として、ピロティ建築など一定の住まい方を義務づけるような規制の導入や水害保険などソフト対策を入れることが重要である。

4. プログラム評価の評価項目と評価指標（案）について

- 流域対策の評価にあたり、民間が任意で実施している部分をどう評価するのか、どう扱うのか。
河川によって異なるが、最終的な計画は公共団体が行うものをカウントしている。民間のものは評価が難しい。任意であった事をどう評価するかは少し考えさせて頂きたい。
- 本プログラム評価は、国のプログラム評価であるが、流域対策は自治体であり、やってくださいと言ったことができたかどうかを評価するのか。
国が実施する施策だけでなく、流域協議会で決める自治体の施策を含む全体を評価する。
- 流域対策の評価には助成措置でつくられている雨水浸透マスは入るのか。
データを集める努力はするが、対策量として整理可能かどうか分からない。
- 河川局だけでなく、都市局とか他部局に諮る部分も評価対象とするのか。
評価対象とするが、定量的でなく、事例によるものもある。
- 通達に基づいて土地利用、建築の分野では何をやってきたのか。水田の保全について省庁間の協力要請を行ったのかなどを評価する。
- 先日水害にあった御笠川は総合治水特定河川事業の採択要件に合わなかったのか。
精査してみるが人口要件で見ると該当していなかった。
- 平成 11 年と今年と 2 度の水害にあって住民らはどう思っているのか。
激特事業による対策を行っている最中に今度の水害になった。現在検討中であるが激特事業で今回の雨に対して河道での対応ができるものと考えている。
- 新法の採択要件に、プログラム評価結果を反映していくべき。例えば、昭和 30 年代～50 年代でアウトでも、50 年代～現況の状況までの変化を捉えて評価基準をつくるなど。
新法（特定都市河川浸水被害対策法）の指定の基準を検討中。
- 埼玉県桶川市を源流とする江川では、上流域の盛土が原因で浸水が発生しており、盛土の抑制が現在問題となっている。盛土の抑制により農地の浸水被害が拡大することに対する補償の有無が議論になっている。
- 総合治水対策の考え方が 17 河川以外にどの程度浸透したのかということが、プログラムの有効性の課題として出てくるのではないかと。17 河川以外の評価をどこかに残したい。
波及しているかどうかは流域貯留浸透事業を適用した河川を調べればある程度出てくると考えられる。
- 何も対策をとらなかったらどうなるかという評価はできるのか。
計算でやることにしている、実際の河川では似たような河川で比較しなくてはならないので難しい。

（以上）